

第9期（令和5年4月～令和6年3月）



まつもと子ども未来委員会 活動報告集



松本市

目 次

I	はじめに	1
II	第9期まつもと子ども未来委員会実施要項	2
III	第9期まつもと子ども未来委員会委員	3
IV	委員会開催状況	4
V	委員会活動	
	第1回委員会	5
	第2回委員会	6
	第3回委員会	7
	第4回委員会	8
	第5回委員会	9
	市内見学	10
	第6回委員会	12
	第7回委員会	13
	第8回委員会	14
	第9回委員会	15
	第10回委員会	16
	第11回委員会	17
	市への提言	18
	第12回委員会	22
	第13回委員会	24
	第14回委員会	26
	第15回委員会	27
VI	その他の活動	
	「地方自治と子ども施策」全国自治体シンポジウム	29
VII	資料	
	1 市への提言	30
	2 未来委員初回アンケート	55
	3 未来委員最終回アンケート	57
	4 保護者最終回アンケート	62

I はじめに

○ 松本市子どもの権利に関する条例 前文（一部抜粋）

わたしたちは、「すべての子どもにやさしいまち」をめざします。

- 1 どの子どもいのちと健康が守られ、本来もっている生きる力を高めながら、社会の一員として成長できるまち
- 2 どの子ども愛され、大切に育まれ、認められ、家庭や学校、地域などで安心して生きることが出来るまち
- 3 どの子ども松本の豊かな美しい自然と文化のなかで、のびのびと育つまち
- 4 どの子ども地域のつながりのなかで、遊び、学び、活動することができるまち
- 5 どの子ども自由に学び、そのための情報が得られ、支援が受けられ、自分の考えや意見を表現でき、尊重されるまち
- 6 どの子どもいろいろなことに挑戦し、たとえ失敗しても再挑戦できるまち

松本市子どもの権利に関する条例が施行されてから11年が経過しました。多くの自治体が少子化対策として「子育て支援」に取り組む中、本市では、条例に基づき、子ども自身の育ちに関わる「子ども支援」にも力を入れて取り組んでいます。

その取り組みの一つが、まつもと子ども未来委員会です。未来委員会は、学校、地域、年代を越えて、市政や地域の課題について学び、解決に向けて意見交換をするなど、活動を通して自分たちが住むまちへの意識を高め、松本のまちづくりを子どもたち自らが考えます。このような取り組みは、子どもたちが自らの意見を表明し、それを受け止めてもらえること、相手の意見に耳を傾け、受け止められるようになることで、自己肯定感を育むことや、子ども自身の育ちにもつながると考えています。

第9期のまつもと子ども未来委員会は、松本のまちづくりに関して委員が関心を持った①生活の改善、②自然の保護、③ボランティア、④PRの4つのテーマについて、市への提言を行いました。また、「地方自治と子ども施策」全国自治体シンポジウムに代表者4人が参加し、分科会（テーマ：子ども参加）では、未来委員会の事例を発表するとともに子どもの声を行政施策に反映するためのあり方や課題について意見表明を行いました。

今期も市内の大学に通う学生にサポーターとして参加いただいたことで、子どもの意見表明が活発となり、未来委員会の活動がより充実しました。サポーターの皆さん、ありがとうございました。

子どもの権利に関する取り組みは、なかなか他の自治体に広がらない現状があります。未来委員会のように、子どもたちが本来持っている力を発揮して成長していく場が広がっていくこと、そのような場で活躍する子どもたちの力に大人が気付くことを通して、子どもの権利に関する取り組みが、県内外に更に広がっていくことを期待しています。

Ⅱ 第9期まつもと子ども未来委員会実施要項

1 趣旨

子どもの意見表明や参加の促進を図り、子どもにやさしいまちづくりを一層進めるため、まつもと子ども未来委員会を開催するもの

2 内容

子どもたちが、学校、地域、年代を越えて、市政や地域の課題について学び、解決に向けて意見交換をするなど、活動をとおして自分たちが住むまちへの意識を高め、松本のまちづくりを子どもたち自らが考える。

3 対象

松本市内在住、在学または市内で活動をしている小学5年生から高校3年生までの子ども（就労者、予備校生等を含む）

4 活動期間

令和5年4月～令和6年3月

5 主な事業

- (1) 委員会
- (2) 施設見学
- (3) 市への提言
- (4) 委員の興味・関心のある事業への参加、実施

6 参加者募集方法

- (1) 市内の小、中、高校へ募集チラシを配布
- (2) 市公式ホームページ、SNS、広報まつもと3月号に掲載

7 参加者募集期限

4月9日（日）まで

8 その他

- (1) 市内の大学、短期大学の学生を対象にサポーターを募集
- (2) 委員が自発的に活動できるよう、高校生の委員及びサポーターによる運営会を必要に応じて開催し、委員会の方向性等について協議

Ⅲ 第9期まつもと子ども未来委員会委員

1 総数 34人

2 内訳

学年		学校（人数）
小学生 14人	5年生 5人	開智小学校(2)、島立小学校(1)、信州大学附属松本小学校(1)、菅野小学校(1)
	6年生 9人	梓川小学校(1)、鎌田小学校(5)、島立小学校(1)、田川小学校(1)、山辺小学校(1)
中学生 12人	1年生 3人	清水中学校(1)、信州大学附属松本中学校(1)、丸ノ内中学校(1)
	2年生 7人	開成中学校(1)、鎌田中学校(3)、信州大学附属松本中学校(1)、松島中学校(1)、丸ノ内中学校(1)
	3年生 2人	高綱中学校(1)、松島中学校(1)
高校生 8人	1年生 1人	松本深志高校(1)
	2年生 6人	松商学園高校(1)、松本蟻ヶ崎高校(1)、松本工業高校(1)、松本国際高校(1)、松本深志高校(1)、松本美須々ヶ丘高校(1)
	3年生 1人	松本蟻ヶ崎高校(1)

3 名簿

(50音順、◎委員長 ○副委員長)

属性	氏 名
小学生	浅輪 奏仁、石井 章雅、大沢 篤士、小倉 三桜子、黒崎 奏、○小谷 優真、小松 依愛、田中 真紘、富田 真紗子、藤崎 晋一郎、堀 大希、○山田 明文、若林 優佳、渡辺 央聖
中学生	荒井 結人、石田 鈴華、伊藤 英怜奈、大沢 朱夏、大澤 悠、上條 乃愛、○鈴木 咲歩、高岡 瑞希、滝川 未央、平形 藤子、山田 夢佐志、横川 詩
高校生	青山 飛眞、阿部 康介、○柏原 楨、滝澤 智貴、◎田中 洸介、根本 怜奈、藤崎 悠理、横山 加奈

Ⅳ 委員会開催状況

回	日 時	場 所	内 容
1	4月23日(日) 13:30~15:00	勤労者福祉センター 3-3会議室	・オリエンテーション ・正副委員長の選出
2	5月14日(日) 13:30~16:00	勤労者福祉センター 3-3会議室	・第9期委員会スローガンの決定 ・活動内容の検討
3	6月 4日(日) 13:30~16:00	勤労者福祉センター 3-3会議室	・活動テーマ、グループの決定
4	6月25日(日) 13:30~16:00	勤労者福祉センター 3-3会議室	・活動テーマに関する学習、話し合い
5	7月23日(日) 13:30~16:00	勤労者福祉センター 3-3会議室	・活動テーマに関する学習、話し合い
	8月 1日(火)		・施設見学
6	8月27日(日) 13:30~16:00	勤労者福祉センター 3-3会議室	・施設見学の振り返り ・活動テーマに関する学習、話し合い
7	9月24日(日) 13:30~16:00	勤労者福祉センター 3-3会議室	・活動テーマに関する学習、話し合い
8	10月 8日(日) 13:30~16:00	勤労者福祉センター 3-3会議室	・市への提言資料の作成
9	10月22日(日) 13:30~16:00	勤労者福祉センター 3-3会議室	・市への提言資料の作成
10	11月 5日(日) 13:30~16:00	勤労者福祉センター 3-3会議室	・市への提言資料の決定
11	11月12日(日) 13:30~16:00	勤労者福祉センター 大会議室	・市への提言のリハーサル
	11月19日(日) 12:00~16:00	勤労者福祉センター 大会議室	「松本子どもの権利の日」市民フォーラム
12	12月10日(日) 13:30~16:00	勤労者福祉センター 3-3会議室	・市への提言の振り返り ・今後の活動について
13	1月14日(日) 13:30~16:00	勤労者福祉センター 3-3会議室	・次期委員会について
14	2月11日(日) 13:30~16:00	勤労者福祉センター 3-3会議室	・次期委員会について
15	3月 3日(日) 13:30~16:00	勤労者福祉センター 3-3会議室	・振り返り、まとめ

V 委員会活動



(第9期) 第1回まつもと子ども未来委員会の報告

4月23日(日)に^{きんろうしやふくし}勤労者福祉センターで第1回まつもと子ども未来委員会を行いました。
この日は、35人の委員のうち、28人の委員が出席しました。

1 自己紹介

今年度は、35人が未来委員会に応募してくれました。

(小学生16人、中学生11人、高校生8人)

家で記入してきてもらった自己紹介シートを参考にしながら、一人ずつ前に出て自己紹介^{じこしょうかい}をしました。

自己紹介では、趣味について話をする委員が多く、みんな興味を持って話を聞いていました。

これから1年間仲良く活動していきましょう。

よろしくお願いします！



2 まつもと子ども未来委員会について、子どもの権利について

^{じむきょく}事務局から未来委員会の目的や内容、取り組むことの予定などを説明しました。

また、子どもの権利^{けんり}についても説明しました。「権利」は^{むずか}難しい言葉ですが、「ワニブタ絵本ガイドブック」には分かりやすく書かれています。今後、少しずつ理解を深めていきましょう。

3 正副委員長の選出

委員長1人、副委員長4人を話し合って決めました。

委員長	^{たなか} 田中	^{こうすけ} 洸介	さん
副委員長	^{かしわばら} 柏原	^{しん} 楨	さん
	^{すずき} 鈴木	^{さほ} 咲歩	さん
	^{こたに} 小谷	^{ゆうま} 優真	さん
	^{やまだ} 山田	^{あきふみ} 明文	さん



次回から、正副委員長が司会進行をします。

みんなで協力して楽しい委員会にしていきましょう。





(第9期) 第2回まつもと子ども未来委員会の報告

5月14日(日)に^{きんろうしやふくし}勤労者福祉センターで第2回まつもと子ども未来委員会を行いました。今回から委員が1人増えて合計36人となり、この日は26人の委員が出席しました。また、大学生サポーターが今回の委員会から参加してくれました。

1 大学生サポーター

市内の大学、短期大学へ未来委員会のサポーターの選出をお願いしたところ、信州大学から5人の学生の紹介があり、この日は4人が出席してくれました。

出席したサポーターは全員県外出身でした。松本のまちを考える時に、ほかのまちはどんな様子なのかを知ることは大切です。色々なお話をしましょう！

1年間お世話になります。よろしくお願いします。



2 第9期委員会のスローガン

今期の委員会のスローガンをみんなで話し合いました。

はじめに4つのグループに分かれて、それぞれの意見を発表し、グループごとに候補^{こうほ}を決めました。

4つの候補による多数決の結果、「より良くした松本を好きになってもらうために」に決まりました。

このスローガンには、「自然豊かな環境など、これまでの松本の良さを大切にしつつ、未来に向かって松本をより良くしていくことで、市内外の人に松本を好きになってもらいたい」という思いが込められています。

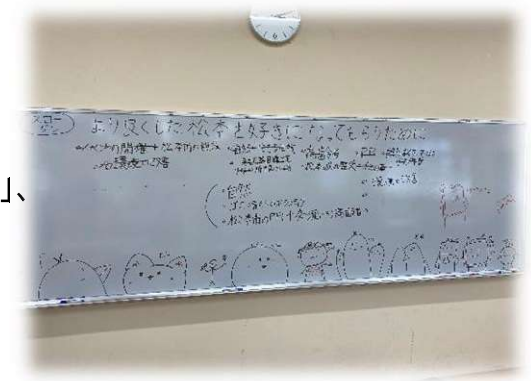


3 委員会活動に関する話し合い

今期の未来委員会でどんな事に取り組んでいきたいか、方向性やテーマについて話し合いました。

多くの意見が出ましたが、話し合いを重ねて、「生活の改善」、「自然」、「ボランティア（高齢者福祉・ゴミ問題等）」、「松本市のPR」の4つのカテゴリーにまとめられました。

次回の委員会では、具体的な内容について話し合いを進めていきましょう。





(第9期) 第3回まつもと子ども未来委員会の報告

6月4日(日)に^{きんろうしゃふくし}勤労者福祉センターで第3回まつもと子ども未来委員会を行いました。
 今回から委員が35人となり、この日は27人の委員が出席しました。また、大学生サポーター4人が参加しました。

1 活動テーマについて

前回の委員会で決まった、「生活の^{かいぜん}改善」、「自然」、「ボランティア(高齢者福祉・ゴミ問題^{もんだい}等)」、「松本市のPR」の4つのグループに分かれ、具体的にどのようなことに取り組んでいくのか、話し合いました。

話し合いの結果、次の内容について取り組みを進めていくことになりました。

グループ	内容
生活の改善	校則や交通マナーの改善
自然	^{さとやま} 里山や ^{せいたいけい} 生態系の保全
ボランティア	ゴミ問題、ゴミ拾い
PR	三ガク都、パンフレットの作成



2 施設見学について

8月1日(火)に予定している施設見学の場所や、調べたい内容について話し合いました。

それぞれのグループから、多くの場所を^あ挙げてもらいましたが、1日しかないので、各グループ1カ所に^{しほ}絞って、次のとおり決まりました。

生活の改善グループの場所・施設は、話を聞くことが主要内容となるので、日程が合わない場合は、別の日に^{じっし}実施することになりました。

グループ	場所・施設	内容
生活の改善	市教育委員会、松本警察署	校則、道路事故についての話を聞く
自然	国営アルプスあづみの公園	里山、在来種の学習
ボランティア	奈良井川・ちびっこ広場	河川環境の確認、ゴミ拾いの実践
PR	歴史の里	三ガク都について理解を深める





(第9期) 第4回まつもと子ども未来委員会の報告

6月25日(日)に勤労者福祉センターでまつもと子ども未来委員会を行いました。
この日はオンラインでの参加も含めて24人の委員が出席しました。また、大学生サポーター3人が参加しました。

1 施設見学について

前回の委員会で、施設見学の場所について話し合いましたが、前回候補に挙がった場所以外にも、学習に適した場所・施設が見つかったことから、改めてそれぞれのグループで話し合い、次のとおり決めました。

また、見学場所が市内の施設に収まったことから、8月1日の午後に施設見学を行うことになりました。



グループ	見学場所・活動内容
生活の改善	くるまどお車通りの多い所(通学路)の確認
自然の保護	浅間温泉の里山保全の取り組み
ボランティア	松本駅前でのゴミ拾い
P R	歴史の里、鈴木鎮一記念館の見学



2 活動テーマに関する話し合い

市への提言に向けて、調べる内容や課題等について話し合いを進めました。

グループ	調べる内容	課題
生活の改善	校則：厳しい校則 交通：危険な場所、自転車の乗り方	(検討中)
自然の保護	里山が必要な理由 人が山をなおすのにかかる時間	管理する人が減ってきている 外来種の増加 ゴミが違法に捨てられている
ボランティア	年間で落ちているゴミの量 どのようなゴミが落ちているのか	ゴミが多くて、拾ってもキリがない 地球、観光に良くない
P R	三ガク都について	三ガク都を知らない人が多い 三ガク都に興味がない



(第9期) 第5回まつもと子ども未来委員会の報告

7月23日(日)に勤労者福祉センターでまつもと子ども未来委員会を行いました。
この日は、25人の委員と大学生サポーター2人が参加しました。

1 松本市環境業務課の出前講座

ボランティア活動に興味を持っているグループが、ごみの発生状況やリサイクルに関心があったことから、市の環境業務課に出前講座を行っていただきました。

松本市は、1人1日あたりのごみの排出量が県内19市の中で最も多いそうです(令和3年度)。清掃のボランティアは、住民や町会の皆さんによる日常的な清掃活動のほか、環境衛生協議会連合会の皆さんが、ごみゼロの日などにごみ拾いを行っています。

その他、市が行っているリサイクルの取り組みについても理解することができました。



2 市内見学及び活動テーマに関する話し合い

市内見学で調べる内容などについて話し合いを進めました。

テーマ	興味を持った理由	調べる内容
交通マナー 校則	通学路が危険、道が狭い 校則に納得できないものがある	事故を防ぐ設備、交通ルール 校則の意味を調べる
若い人に里山 を知ってもら おう！！	若い人は、虫が怖い、土をさわれない、きたないという人が増えているから	里山にはどんな生き物がいるか 里山維持の難しさ 里山の保全で土壌は変わるのか
(仮) 松本のご み問題	ごみの事を多くの人に知ってほしい ポイ捨てが気になった	ごみが落ちている場所 落ちているゴミの種類
三ガク都	松本市をPRしたい	三ガク都の取り組み



(第9期) まつもと子ども未来委員会市内見学の報告

8月1日（火）に、提言のテーマに関する施設等の見学を行いました。この日は、22人の委員が参加しました。

1 市内見学のスケジュール

13:00	松本市役所
13:30 ~ 14:30	浅間温泉木の絆会（里山保全の取り組み）
14:45 ~ 15:15	鈴木鎮一記念館（三ガク都について）
15:45 ~ 16:45	歴史の里（三ガク都について）
17:00 ~ 17:15	松本駅前（清掃ボランティア）
17:30	松本市役所

2 浅間温泉木の絆会

浅間温泉木の絆会^{きずな}は、2002年に浅間温泉の大音寺山^{だいおんじやま}で発生した大きな山火事により、170ヘクタールの広さの山が燃えてしまったことから、もう一度元の山に戻そうと植樹^{しょくじゅ}や遊歩道の保全活動等を行っている団体です。2008年に12人だった人数は、2022年には32人にまで増えています。

これまでに植樹した本数は、3,000本以上にのぼり、多くの人が安全に遊びに来られるように遊歩道やベンチを作ったり、花を植えたり、草刈りをしています。

実際に遊歩道を歩いてみると、大きな山火事があった場所とは思えないほど、きれいに整備されていました。





3 鈴木鎮一記念館

鈴木鎮一記念館は、松本市名誉市民の故鈴木鎮一^{めいよ}氏が、1952年から1994年まで住まわれたご自宅で、スズキ・メソード発祥の地です。世界的な視野で活躍された業績^{ぎようせき}を^{たた}称える数多くの資料が公開展示されています。

音楽による幼児の才能教育「スズキ・メソード」は、世界の74の国と地域に広がっています。



4 市内見学の中止

激しい雷雨となったことから、歴史の里の見学と松本駅前での清掃ボランティアは、中止になりました。



(第9期) 第6回まつもと子ども未来委員会の報告

8月27日(日)に勤労者福祉センターでまつもと子ども未来委員会を行いました。
この日は、23人の委員と大学生サポーター1人が参加しました。

1 松本市博物館の出前講座

里山の保全に興味を持っているグループが、里山の生態系に関心があったことから、市の博物館に松本市の生き物に関する出前講座を行ってもらいました。

松本市は、3,000メートル級の山々、そこから流れ出る河川、まちの中の湧水など、豊かな自然環境に囲まれており、また、草原や里山、田園地帯など、様々な環境があることから、多種多様な生き物がいるそうです。

里山・里地は、人の手が入ることによって雑木林や草地などの環境が維持されている場所で、様々な生き物が住んでいましたが、近年、里山里地の荒廃が進んでおり、そこに住む生き物の種類が減っているそうです。



2 青森市子ども会議委員とのオンライン交流について

次回の未来委員会で、青森市の子ども会議委員とオンライン交流を行うことになりました。当日は、お互いのまちの紹介、子どもの権利やまちなどに関するクイズ、お互いの活動内容の発表を予定していることから、それぞれ発表者を決定しました。

3 市内見学の振り返り、活動テーマに関する話し合い

8月1日に行った市内見学の振り返りと活動テーマに関する話し合いを進めました。

グループ	市内見学の振り返り／松本市の現状・課題
交通・道路事情 校則	道がせまい、ガードレール・縁石が少ない、ごみ捨て場があり通りにくい。 校則を把握していない、時代に合わない、先生の意見ばかり反映される。
里山を知って もらう	人が手を加えれば里山を取り戻すことができる、里山を管理する人が高齢化している。 / 若い人が里山のことを知らない。
ポイ捨て、 ボランティア	ポイ捨てする人が多い、ごみ拾いする人が少ない、リサイクルできていない。
PR、三ガク都	世界的な音楽の才能教育が松本で生まれた。 / 子ども目線のPRが少ない、三ガク都のPRが不十分。



(第9期) 第7回まつもと子ども未来委員会の報告

9月24日(日)に^{きんろうしやふくし}勤労者福祉センターでまつもと子ども未来委員会を行いました。
この日は、16人の委員と大学生サポーター3人が参加しました。

1 青森市子ども会議とのオンライン交流

今回の交流は、青森市子ども会議から提案があり実現しました。青森市の子どもたちとは、平成26年度に子ども会育成会のジュニア・リーダー会が交流を行ったことがあります。

はじめに、全員で自己紹介をした後、お互いのまちの紹介をしました。青森市の文化、名物・名所、おすすめの食べ物などを知ることができました。

次に、お互いの活動内容を発表し、^{いけんこうかん}意見交換を行いました。施設の見学や市長への意見表明などの共通点がありましたが、青森市子ども会議では、青森市の^{みりよく}魅力を広めるために公式のインスタグラムを使って子どもの目線から発信を行っているそうです。未来委員会でも市のPRに関心があることから、どのように行っているのかを確認しました。



2 活動テーマに関する話し合い

オンライン交流が盛り上がり、時間が短くなりましたが、活動テーマのグループごとに、前回の委員会で話し合った内容を確認しました。次回から提言の資料を作成します。自分の意見をまとめて、グループ内で共有できるようにしましょう。



(第9期) 第8回まつもと子ども未来委員会の報告

10月8日(日)に^{きんろうふくし}勤労者福祉センターでまつもと子ども未来委員会を行いました。
この日は、22人の委員と大学生サポーター3人が参加しました。

1 「松本子どもの権利の日」市民フォーラムについて

市民フォーラムでは、子どもたちが司会と大会宣言の読み上げを行っています。毎年、松本市ジュニア・リーダー会と順番で担当していて、今年は大会宣言の読み上げ(1人)が未来委員会の担当となります。また、子どもの権利に関するパネルディスカッションも行われることから、そちらへの参加(3人)もあわせて依頼しました。

中高生を対象に立候補を募り、次回の委員会で決定することになりました。

2 活動テーマに関する話し合い、市への提言資料の作成

活動テーマのグループごとに市への提言に向けて話し合いを行いました。

①テーマに興味を持った理由、②松本市の現状・取り組み、③松本市の課題、④市への提言について、グループで話し合い、パソコンを使ってパワーポイントの作成にとりかかりました。

提言資料の完成までには、まだまだ時間がかかりそうな様子ですが、みんなで協力してまとめていきましょう。





(第9期) 第9回まつもと子ども未来委員会の報告

10月22日(日)に勤労者福祉センターでまつもと子ども未来委員会を行いました。
この日は、委員21人と大学生サポーター3人が参加しました。

1 「松本子どもの権利の日」市民フォーラムについて

市民フォーラムで行われる、子どもの権利に関するパネルディスカッションの参加者3人と、大会宣言の読み上げ1人を決めてもらいました。全て立候補により決定することができました。

パネルディスカッション参加者：阿部 康介さん、滝澤 智貴さん、平形 藤子さん
大会宣言の読み上げ：小谷 優真さん

2 活動テーマに関する話し合い、市への提言資料の作成

市への提言に向けて、話し合いと資料作成を行いました。他のグループのメンバーに意見を聴いたり、アンケートを取ったりして、協力して進めている様子が見られました。
休憩時間も話し合いや資料作成が続くなど、集中して取り組んでいました。

生活の改善グループ

テーマに興味を持った理由
～2グループに分かれた理由～

校則の改善

【私たちの要望】
自らが自分の学校の校則について考え、気軽に先生に意見することが出来る学校環境になってほしい。

通学路の改善

【私たちの要望】
普段の生活から感じる通学路の危険な箇所を改善してほしい。

自然の保護グループ

テーマに興味を持った理由

「持続可能な社会」が話題になっている今の時代に里山は
【生物の多様性、景観生成、自然への関わり】
→これからの社会に必要

しかし高齢化や、松枯れによる里山の減少が著しいという話を聞いた

ボランティアグループ

テーマに興味を持った理由

- ・ボランティア自体の活動が楽しそうだったから。
- ・最近ゴミをポイ捨てする人が多い。
- ・道にゴミが落ちていて、市民も観光客もいい気持ちがないから。
- ・年間でポイ捨てされているゴミの量が気になったから。

PRグループ

テーマに興味を持った理由

- ・PRについて、もう一度考えたいと思ったから。

→“PR”とは？

そこから未来委員会のPRについて考えるグループ
松本市のPRについて考えるグループにわかれた。



(第9期) 第10回まつもと子ども未来委員会の報告

11月5日(日)に^{きんろうふくし}勤労者福祉センターでまつもと子ども未来委員会を行いました。
この日は、委員22人と大学生サポーター2人が参加しました。

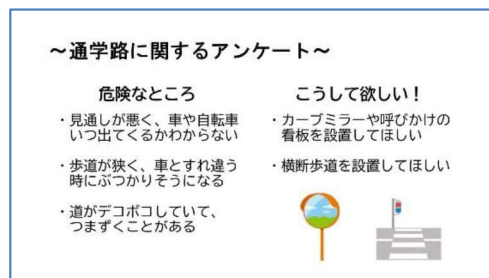
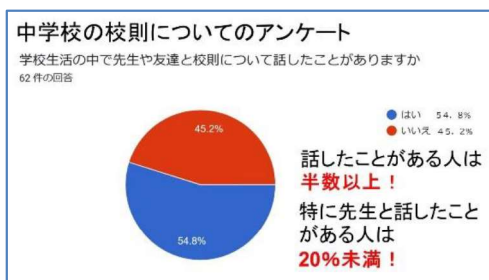
○活動テーマに関する話し合い、市への提言資料の作成

前回に引き続き、市への提言に向けて、グループごとに話し合いと資料作成を行いました。自分の学校でアンケートを取って、その結果を掲載しているグループもあり、資料の内容が充実してきました。

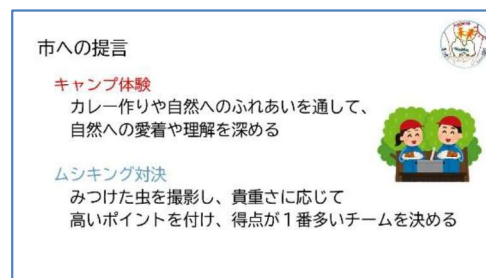
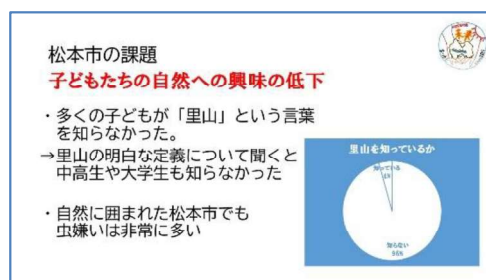
休憩時間も資料作成に取り組み、全てのグループで完成することができました。

次回の委員会は、市民フォーラムが行われる会場で発表のリハーサルを行います。

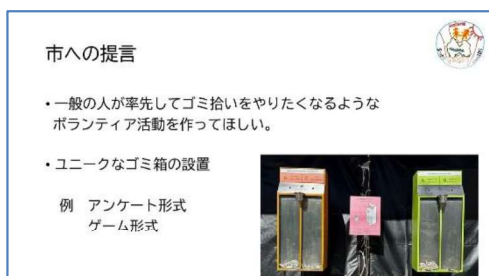
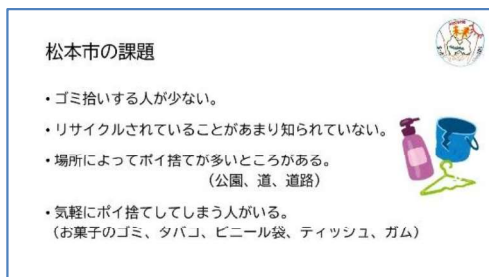
生活の改善グループ



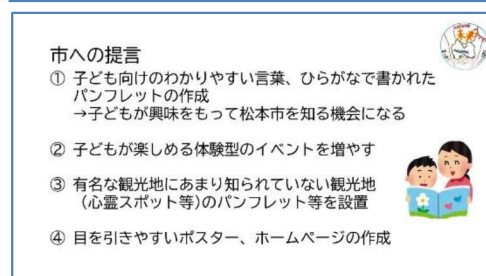
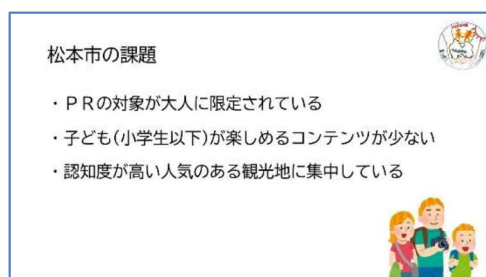
自然の保護グループ



ボランティアグループ



PRグループ





(第9期) 第11回まつもと子ども未来委員会の報告

11月12日(日)に勤労者福祉センターでまつもと子ども未来委員会を行いました。
この日は、委員20人と大学生サポーター1人が参加しました。

1 まつもと子ども未来委員会紹介の発表者について

「松本子どもの権利の日」市民フォーラムで未来委員会の紹介を行ってもらう3人を決めました。(鈴木 咲歩さん、滝澤 智貴さん、山田 明文さん)

2 発表のリハーサル

市への提言が行われる会場でリハーサルを行いました。ステージの立ち位置や動き、マイクの受け渡しの手順などを確認して、全体を通してリハーサルを行いました。

初めての発表ということもあり、漢字が読めなかったり、つかえてしまったりすることがあったので、当日までそれぞれで練習してくるようになりました。

当日もリハーサルを行います、堂々と発表できるよう練習を頑張りましょう！

まつもと子ども未来委員会とは…？

- ◆「松本市子どもの権利に関する条例」に基づいて開催
- ◆委員：小学5年～高校3年生
学校、地域、年代を越えて活動しています！
- ◆松本市の取り組みや、地域の課題を学び、話し合い、松本のまちづくりを自分たちで考えています



未来委員会7か条

- 1 自分の考えを持つ
- 2 他の人の意見をしっかり聞く
- 3 互いを認め合う
- 4 積極的に取り組む
- 5 コミュニケーションを大切にする
- 6 松本をよく知る
- 7 楽しく委員会に参加する

第4期の未来委員が自分たちで考えました！





(第9期) まつもと子ども未来委員会 市への提言の報告

11月19日(日)に^{きんろうしやふくし}勤労者福祉センターで「松本子どもの権利の日」市民フォーラムが開催され、市への提言を行いました。

この日は、委員32人と大学生サポーター2人が参加しました。

1 提言の様子



2 伊佐治教育長・臥雲市長のコメント

(1) 生活の改善(校則)

【教育長】

皆さん、校則について言いたいことが一杯あると改めて感じました。なかなか学校でも変えていくことができない部分かなと思います。

子どもの自由は、規律ある学校生活のために一定程度制限されるべきだという、ルールというか、学校の常識というのがまだ残っていると思います。

しかし、これは変えていかなくてはいけないと私は思っています。そのためには2つの方法があり、まず、授業の中で子どもたちの主体性を大事にすること、これは今、校長先生や先生方をお願いして取り組んでいます。2つ目は、校則とか制服とか、みんなから目に見える形で、形から入っていくということ、これも変えていく必要があると思います。

この2つが両輪となることで、子どもたちが主体的に、いきいきのびのびと過ごせる、学べる、そんな場になっていくと思うので、皆さんの提言はしっかり学校の先生方に伝えていきます。

こども基本法には、子どもの権利擁護や意見表明の機会を大切にすることが法律上位置づけられています。例えば、学校では校則の見直し、こういうことにおいて児童生徒の意見を尊重していくこと、このことが大事にされるべきだということがしっかり述べられています。

そのため、法律ができてから、校長先生や先生たちの研修の機会でこのことを紹介して、学校で取り組んでくださいとお願いしています。なかなかすぐには変えられないかもしれませんが、しっかり取り組んでいきます。

【市長】

校則について話し合う時間を設けることはできます。中学生は、校則について話し合う時間を設けてほしいと、先生にどんどん言ってもらえれば変えられるところがあると思います。

定期的なアンケートを実施することについては、それぞれで行うと、なかなか先生方を動かすというところまでにはなりにくいと思います。学校ごとに行っていないということであれば、生徒会など、少しまとまった形で行った方が、皆さんの意見は通りやすくなると思います。

(2) 生活の改善（通学路）

【教育長】

道路は、国道や県道、市道というように管理をする人が違って、皆さんが通う時にここは危険だなと思う箇所を市長が変えようと思っても、それが国道だったりすると、国道事務所の人にやらなければいけないと思ってもらわないと対応してもらえません。だから、いろんな人が一緒になって協議会というものを作って、1年に1回必ず点検を行っています。

協議会が実際に道路の点検をするときに、学校の代表、例えば生徒会長とか、委員の人に来てもらって、子どもと一緒に回るのも良いと思います。

子どもにアンケートを取ってほしいということについては、道がでこぼこしているとか、ゴミ捨て場のゴミがあるときに通りにくいとか、毎日そこを通っている子どもたちでないとわからないこともあるので、貴重な提言をいただいたと思います。

【市長】

松本市の公式ラインの中に道路の補修について何か気がついたことがあったら、写真と併せて送ってもらえる仕組みを作っています。

皆さんが気付いた通学路の現状をどのようにしたら松本市に届けてもらえるかということは検討していきたいと思います。1年に何回かまとめてアンケートするというよりは、気が付いたことをすぐ届けてもらう仕組みを作ることが道路の要望では大切だと思います。

通学路は、それぞれの地域の人たちからも一番安全を優先してほしいという要望があるので、しっかり取り組んでいきたいと思います。

(3) 自然の保護（里山の保全）

【教育長】

里山は、松本の魅力を形成している大事な要素かもしれないということを気付かせてもらいました。

里山管理の担い手不足という課題に対して、一緒になって、体験しながら、そして参加しながらやってもらうということは、とても良いことだと思います。

【市長】

里山を管理する担い手がなかなか広がらないという課題に対して、キャンプやゲーム性のあるイベントによって子どもたちの関心を高め、将来の里山の担い手の確保につなげていくというアプローチは非常に大切だと思います。

このことに近い取り組みとしては、1年に1回アルプス公園で、ネイチャリングフェスタというイベントを松本市も関わって行っています。里山とか、自然と触れあって、子どもたちが将来大人になっても里山や自然と共生していけるような、そういうことにつなげていこうというイベントですが、今の子どもたちがもっと興味が湧くような、ワクワクする企画を提案してもらえたらと思います。

ネイチャリングフェスタのように既に実施しているイベントもあるので、それらをもっと盛り上げる形でも関わってもらえたらと思います。

(4) ボランティア（ゴミの問題）

【教育長】

ゴミの問題は決まりがあってもなかなか実現できない、1人1人の意識が変わっていかねば実現できないことだと思います。歩いているときにゴミを拾う、拾わないということは、個人の意思に任されていることですが、そういうことこそ、市が取り組むべき難しい問題だと思います。

松本市が県内の市の中でゴミの排出量が一番多いのは、事業系のゴミがすごく多いということがあります。これは飲食店が多かったり、旅館とかホテルが多かったり、そういうこともあると思いますが、そのゴミをなくすために30・10（さんまる いちまる）運動という、食品ロスを削減するための活動も行っています。

皆さんの中に、来年もゴミのことを考えていきたいという委員がいたら、この事もゴミの全体量を減らすために大事なことなので調べて整理してもらえると良いと思います。

【市長】

一般の人が率先してゴミ拾いをしたくなるようなボランティアについて、今、松本市ではそれぞれの町会、あるいは松本市一斉でゴミ拾いを行っていますが、もっとやりたくなるためには、どういうことが必要だと思いますか。

松本市では、環境業務課が担当課となりますが、職員からは出てこないような発想が必要だと思います。課長や係長と未来委員会のメンバーと一緒に考える時間を設けて、具体的にいろいろ知恵を出してもらって、実際の政策に結び付けられるように考えていければと思います。

ユニークなゴミ箱の設置について、ゴミ箱を設けるとすごくゴミが増えてしまうという現実もあって、自分たちで持って帰ってもらった方が良い、そういう視点も持って考えなければいけないということもあります。

(5) P R

【教育長】

子ども目線で資料を作るという提言について、子ども目線でできていないことの一つの例だと思います。しかし、子どもにもわかるようにということは、乳幼児もいれば、小学生、中学生もいる中で、どの辺を対象としていくかということは難しいことだと思います。私達はいろいろなことを説明するときに、小学校5年生ぐらいがわかるように説明しようと心がけています。そのくらいの対象に絞って、意識してP Rすることが大事だと思います。

歴史の里のパンフレットがわかりづらいということなので、確認して見直していきたいと思います。

子ども目線で面白いものをP Rしてほしいということですが、大人は子ども心を忘れてしまっている人が多いので、子ども目線というのは皆さんにしかわかりません。ぜひこの委員会でこれをP Rしていこうというものをピックアップしてもらって、みんなも一緒にP Rの動画を作ったり、パンフレットを作ったりしてもらいたいと思います。市長が力を入れているシンカチャンネルにも出てもらったらいいなと思います。

【市長】

市役所の中でよく言っているのは、いろいろな事業とか政策をやっても、市民の皆さんに伝わらないと、結局利用してもらえないということです。私よく知らないという声がすごく多いです。今はインターネットが普及して、それほどお金をかけなくても情報を伝達したり、拡散したりすることができるようになり、松本市では常にいろいろな形で発信していこうと思っています。

それを小学生向けにもっとやってほしいということですが、それは、皆さんたちからすれば当然のことで、今までは大人向け、せいぜい中学生以上がわかるように伝えてきました。例えば、パンフレットを作る、そしてそれを届けることはすごくお金がかかりましたが、インターネット上の情報の発信、P Rとなると、大人向け、子ども向けを作ってそれぞれ見てもらえるようにしても、2倍、3倍とかかるわけではないので、これは市役所の意識の問題だと思います。

小学生以下向けにもしっかり物事を伝えていく、そうすることで、いずれ皆さんが大人になっていった時に、松本市のことをもっと考えてもらうということになると思います。パンフレットを作るというよりは、インターネットを通じて、また、一人一台端末を通じて新しい情報を小学生以下向けにも届けるということを意識していきたいと思います。



(第9期) 第12回まつもと子ども未来委員会の報告

12月10日(日)に勤労者福祉センターでまつもと子ども未来委員会を行いました。
この日は、委員18人と大学生サポーター2人が参加しました。

1 「地方自治と子ども施策」全国自治体シンポジウムについて

来年の2月10～11日に東京都小金井市で開催されるシンポジウムの第4分科会(子ども参加)に、まつもと子ども未来委員会が参加することになりました。

分科会では、委員会活動の報告、委員会の意義や課題等に関する意見交換会などが行われます。シンポジウムの参加者(3人)は、次回1月14日の委員会で決定します。

2 市への提言の振り返り

「松本子どもの権利の日」市民フォーラムで行った、市への提言の振り返りをしました。個人とグループ・全体の視点で、良かった点、反省点を話し合いました。

良かった点

【個人】

- ・大人の前で意見を言う経験ができて良かった
- ・前を見て発表できた
- ・意見をたくさん出せた
- ・大きな声で発表できた
- ・原稿をそれぞれ工夫して読めた

【グループ・全体】

- ・提言に関係するアンケートを取ることができた
- ・わかりやすいスライドを作れた

反省点

【個人】

- ・自分の意見を言えるようになりたい
- ・早口で原稿を読んでしまった

【グループ・全体】

- ・メンバーが全員集まることが1回しかなかった
- ・発表の時間が短かった
- ・他のグループが発表している時の態度が悪い(おしゃべり、キョロキョロ、いねむり)



3 今後の活動について

市長、教育長のコメントを聞いて感じたこと、来年度、未来委員会でどのように活動していきたいかについて話し合いました。

グループ	市長、教育長のコメントを聞いて感じたこと
生活の改善 (校則)	・ 前向きにとらえてくれていると思った。
生活の改善 (通学路)	・ 提言した内容を実現するには、今の仕組みでは難しいところもあるが、市長、教育長が話していた活動もやってみたい。
自然の保護 (里山の保全)	・ 子ども目線の活動も大切だということに気付いてもらって良かった。
ボランティア (ゴミ関係)	・ ゴミ箱を設置することは、良いことばかりではないことを知った。 ・ みんながゴミを拾いたくなるようなボランティアの方法を考えたい。
P R	・ 提言をするための委員会になっているのではと感じた。

グループ	来年度、未来委員会でどのように活動していきたいか
生活の改善 (校則)	・ 学校生活の改善に関する活動をしたい。 ・ 提言を受けて、取り組みはじめたことや、検討している内容を共有する機会を2、3月に開いてほしい。
生活の改善 (通学路)	・ 継続して活動したい。 ・ 提言した内容を実際に行ってみたい。 ・ 市の取り組みをしっかり調べたい。
自然の保護 (里山の保全)	・ 周りを良くできるような活動を積極的に行いたい。 ・ 人前で話すことに緊張しないようにしたい。
ボランティア (ゴミ関係)	・ ゴミの全体量を減らすためにはどうしたら良いか考えたい。 ・ 清掃活動に参加したい。
P R	・ 書記や統括委員長（複数年経験者）を決めて体制をしっかりする。 ・ 1年周期をやめる。 ・ オリエンテーションなどで話し合いの方法を学習する。

- ※ 次回、1月14日の委員会では、次期未来委員会のことについて話し合います。
未来委員会の活動をどのようにしていきたいか、各自考えてきてください。
(活動期間を2年にする、新たな提言はやめて、これまで提言してきたことを行う、
書記や統括委員長、グループの班長を決める など)



(第9期) 第13回まつもと子ども未来委員会の報告

1月14日(日)に^{きんろうふくし}勤労者福祉センターでまつもと子ども未来委員会を行いました。
この日は、委員23人と大学生サポーター1人が参加しました。

1 市への提言に対する関係課の回答について

昨年11月の市民フォーラムで行った市への提言に対する関係課からの回答を確認し、
回答に関する感想やこれからの活動について話し合いました。

グループ	感想・これからの活動
生活の改善	・市にお願いするのではなく、もっと自分たちで行動すべき。 ・校則への不満などのアンケートを定期的に行っていきたい。
自然の保護	・自分たちの提言が会議で話し合われることを聞いてうれしかった。 ・ムシキング対決は、安全面に課題があるため改善していきたい。
ボランティア	・ゴミ拾いのボランティアに参加したくなるようなアイデアを考え、担当課の方と意見交換したい。 ・ゴミを捨てられないようにするにはどうしたら良いか考えたい。
PR	・実行されていないことが多かったので、提言してよかった。 ・アンケートを実施して子ども目線でおもしろいと思うことをまとめ、担当課の方と意見交換したい。



2 次期委員会委員の募集チラシについて

募集チラシの原稿を作成してくれる委員の募集を行い、次のとおり決定しました。

小学生版：富田 真紗子 さん、中高生版：横山 加奈 さん

募集チラシは、3月以降、市内の小、中、高校へ配付します。

3 「地方自治と子ども施策」全国自治体シンポジウムの参加者について

2月10～11日に小金井市で開催されるシンポジウムの参加者3人を決めました。

参加希望の委員は9人で、小、中、高校生から1人ずつ参加することになりました。

話し合いでは3人に絞ることができなかったため、希望者からシンポジウムへの抱負を話してもらい、出席委員の投票により次のとおり決定しました。

高校生：柏原 槇 さん、中学生：鈴木 咲歩 さん、小学生：小谷 優真 さん

4 次期委員会について

次期委員会で取り組みたいこと、変えた方が良くと思うことを話し合いました。

グループ	取り組みたいこと、変えた方が良く思うこと
生活の改善	・企業との協力活動を行う。 ・商業施設にポスターやチラシを置く。 ・どれか1つの活動テーマを継続して行う。 ・市民フォーラムで、子どもの権利や参加した感想等を伝える。
自然の保護	・色々な方面からの課題を考え、より良い提言を目指す。 ・市長や教育長からの意見を元に、進化させた提言をもう1回する。
ボランティア	・来年度もボランティアの話し合いをしたい。 ・席を決めてみんなと仲良くなりたい。
P R	・続けられるテーマは、続けて行う。 ・自分の足を運んで調査したい。 ・ボランティアやアンケート調査を自分たちで行って、問題を見極める。 ・班別は続けて、それぞれの活動を共有する。

※ 話し合う時間が少なかったため、最終回の委員会（3月3日）でも話し合います。

未来委員会の活動をどのようにしていきたいか、各自考えてきてください。



(第9期) 第14回まつもと子ども未来委員会の報告

2月11日(日)に市立博物館^{はくぶつかん}でまつもと子ども未来委員会を行いました。
この日は、委員16人と大学生サポーター2人が参加しました。

1 カードゲーム「地域王」について

まつもとせいねんかいぎしよ^{まつもとせいねんかいぎしよ}の方から松本のことについて学べる、カードゲーム「地域王」^{せいさく}の制作の協力依頼^{いらい}について説明がありました。令和6年3月から3～4回程度、開催する会議への参加を呼びかけ、アンケート調査^{ちようさ}を行いました。参加について聞かれると何人かの委員から参加してみたいとの声があがっていました。

2 市立博物館の見学

がくげいいん^{がくげいいん}の方の説明を聞きながら、常設展示室^{じようせつてんじしつ}と特別展示室^{とくべつてんじしつ}を見学しました。

3階の常設展示室^{じようせつてんじしつ}では、松本の特徴^{とくちよう}を8つのテーマに分類し紹介^{しょうかい}していました。

えどじだいこうき^{えどじだいこうき}の松本城とその周辺の城下町^{じようかまち}の様子を再現したジオラマでは、松本城を中心とした街並み^{まちなみ}や当時の生活ぶりなどについて説明^{せつめい}があり、みんな熱心に聞いていました。

2階の特別展示室^{とくべつ}では、浮世絵^{うきよえ}の展示のほか、浮世絵を作る工程^{こうてい}の映像コーナーや浮世絵の力ツラ^{うきよえ}を付け替える遊びが体験できるコーナーがありました。また、出口付近^{ふきん}には、はがきサイズの紙で浮世絵^{うきよえ}の版画^{はんが}体験ができるコーナーもあり、それぞれ博物館^{はくぶつかん}を楽しみました。





(第9期) 第15回まつもと子ども未来委員会の報告

3月3日(日)に勤労者福祉センターでまつもと子ども未来委員会を行いました。
この日は、委員27人と大学生サポーター1人が参加しました。

1 「地方自治と子ども施策」全国自治体シンポジウムの報告

参加者の柏原さん、鈴木さん、小谷さんと、自主参加した田中委員長から、シンポジウムの様子や感想等を報告してもらいました。

- ・参加している大人がやさしくて、未来委員会の活動を発表しやすかった。
- ・他市の子ども会議の活動を知れてよかった。
(活動内容を見直している市が多かった、交通費や昼食代を支給している市があった)
- ・他市の子ども会議のメンバーと連絡先を交換したので、全体で交流会を行いたい。

2 第9期委員会の振り返り(次期委員会について)

委員会を通して、①学んだこと・成長したこと、②がんばったこと、③反省点、
④次期委員会について、話し合いました。



①学んだこと・成長したこと

- ・人前で話すことに慣れた
- ・課題解決のために現状を踏まえながら考えることができた
- ・1つ1つの意見を聴くことの大切さを学んだ
- ・松本市の良さを知ることができた

②がんばったこと

- ・自分の意見を言うこと
- ・自分が伝えたいことを分かりやすく丁寧に説明すること
- ・発表の時に大きな声で話すこと
- ・人の意見を聴くこと
- ・資料づくり

③反省点

- ・話し合いを深めることができなかった
- ・現状をもっと調べるべきだった
- ・計画的に進めることができなかった
- ・発表の時に声が小さくなってしまった
- ・ゴミ拾い(実践活動)ができなかった
- ・あまり自分の意見が言えなかった

④次期委員会について

- ・小学生には委員会の時間が長いので、2時間で良いのではないか
- ・意見を言う人がいつも決まっている、話しやすい雰囲気を作ることが大切、中高生がファシリテーターとなって意見を引き出す、ディスカッションの練習を行う
- ・委員会の最後の10分に全体で情報共有を行う

3 修了証授与

松本市こども育成課長から第9期まつもと子ども未来委員会修了証が授与されました。



第9期委員会の活動は、今回で終了となります。

VI その他の活動

「地方自治と子ども施策」全国自治体シンポジウムへの参加

令和6年2月10日（土）～11日（日）に小金井市で開催されたシンポジウムに、まつもと子ども未来委員4名が参加しました。このシンポジウムは、子ども施策のあり方や子どもにやさしいまちづくりの展望などについて、自治体関係者と研究・専門家等が連携協力をしながら、情報・意見交換や研修を行う機会となっており、2002年から開催されています。

「子ども参加」がテーマの分科会には、豊島区、中野区、八王子市、川崎市の子ども会議・子ども議会のメンバーも参加していました。参加した委員は、未来委員会の活動を報告するとともに、委員会の意義や課題、今後の抱負などについて発表しました。

参加した委員からは、

- ・分科会に参加している大人がやさしくて、未来委員会の活動を発表しやすかった。
 - ・他市の子ども会議の活動を知れてよかった。
 - ・他市の子ども会議のメンバーと連絡先を交換したので、全体で交流会を行いたい。
- などの感想がありました。



令和5年11月19日



まつもと子ども未来委員会 市への提言

第9期まつもと子ども未来委員会



まつもと子ども未来委員会とは…？



- ◆ 「松本市子どもの権利に関する条例」に基づいて開催
- ◆ 委員：小学5年～高校3年生
学校、地域、年代を越えて活動しています！
- ◆ 松本市の取り組みや、
地域の課題を学び、話し合い、
松本のまちづくりを
自分たちで考えています



未来委員会のマークについて

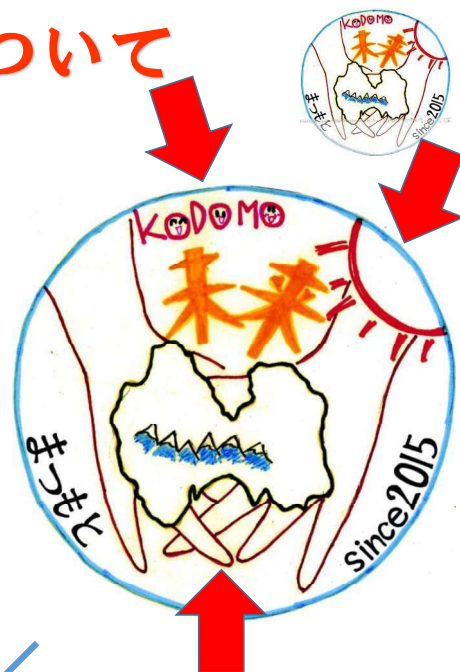
マークに込めた思い

／笑顔でいっぱいになりたい／

⇒KODOMOの“O”が笑顔になっている

／松本と松本の自然を大切にしたい／

⇒手の中に松本、山と太陽 ▲



未来委員会7か条

- 1 自分の考えを持つ
- 2 他の人の意見をしっかり聞く
- 3 互いを認め合う
- 4 積極的に取り組む
- 5 コミュニケーションを大切にする
- 6 松本をよく知る
- 7 楽しく委員会に参加する

第4期の未来委員が
自分たちで考えました！



第9期の未来委員会



◆ 活動期間

令和5年4月～令和6年3月

◆ 委員

34人（小学生14人、中学生12人、高校生8人）

→ 継続21人、新規13人

◆ 大学生サポーター

5人（信州大学5人）

第9期のスローガン



より良くした松本を
好きになってもらう
ために





活動内容について



委員会の様子





市内見学の様子

市への提言に関する場所・施設を見学しています



他都市の子どもたちとの交流

青森市子ども会議とのオンライン交流





市への提言

市への提言に向けた活動



- ◆ 自分たちが興味を持った事柄について、学習し、自分たちの考えをまとめる

生活の改善

ボランティア

自然の保護

P R

日常生活の改善グループ ～私たちを取り巻く環境～

【校則の改善】 青山飛眞 石田鈴華 伊藤英怜奈 高岡瑞希
【通学路の改善】 阿部康介 荒井結人 上條乃愛 平形藤子
横川詩



テーマに興味を持った理由
～2グループに分かれた理由～

校則の改善

【私たちの要望】
アンケート結果

通学路の改善

【私たちの要望】
普段の生活から感じる通学路の危険な箇所を改善してほしい。

松本市の課題 【校則の改善】

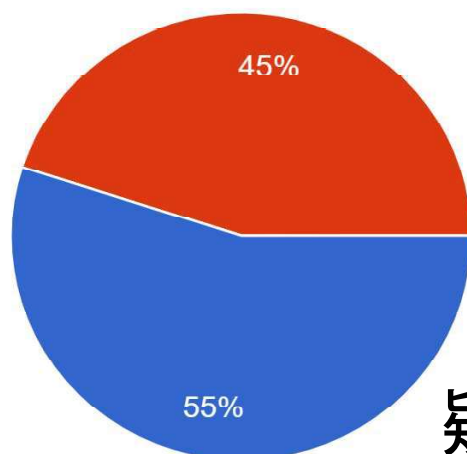
- 先生の見解ばかりが反映され、生徒の見解を話す機会がない
- 意見を話してもそれが校則に反映された経験がない
- 生徒は校則を知る機会が少なく全て把握していないため校則違反で先生に指導されても・・・



中学校の校則についてのアンケート

自分の学校の校則に疑問がありますか

60 件の回答



● はい 55%
● いいえ 45%

疑問を持っている人は
全体の半数以上！

疑問のある校則の具体例

- ・手首に髪の毛のゴムをつけてはいけない
- ・整髪剤を使用してはいけない

～服装の色の指定について～

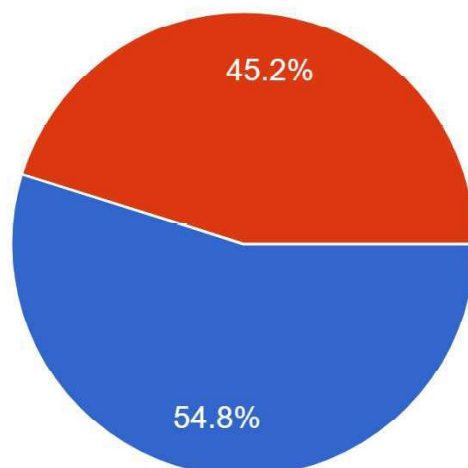
- ・靴下
- ・髪の毛のゴム
- ・カーディガン



中学校の校則についてのアンケート

学校生活の中で先生や友達と校則について話したことがありますか

62 件の回答



● はい 54.8%

● いいえ 45.2%

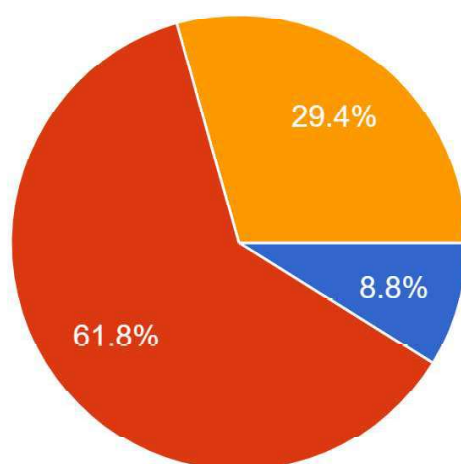
話したことがある人は
半数以上！

特に先生と話したことが
ある人は
20%未満！

中学校の校則についてのアンケート

はいと答えた人に質問です。いつ話しましたか

34 件の回答

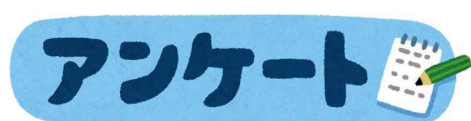


授業中	8.8%
休み時間	61.8%
放課後	29.4%

授業中に話した経験がある人は**1割未満**
休み時間や放課後に話した経験がある人は**9割以上**！

市への提言 【校則の改善】

- ・ 校則について話し合う時間を設けてほしい
- ・ 定期的なアンケートの実施



松本市の取り組み 【通学路の改善】

- ・小中学校から点検報告のあった危険箇所について、現地調査、対策を行っている。
- ・合同点検を行っている。



松本市の課題 【通学路の改善】

通学路の課題

- ・見通しが悪い。
- ・ゴミ捨て場などにより、道がふさがれ、車道に出てしまう。
- ・信号を待つとき、歩行者と自動車の距離が近い。
- ・縁石などを設置してほしくても、道幅が狭いなどの理由で、できない箇所がある。



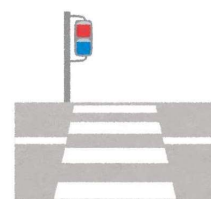
～通学路に関するアンケート～

危険なところ

- ・ 見通しが悪く、車や自転車いつ出てくるかわからない
- ・ 歩道が狭く、車とすれ違う時にぶつかりそうになる
- ・ 道がデコボコしていて、つまずくことがある

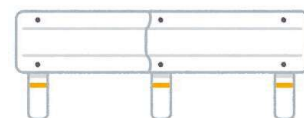
こうして欲しい！

- ・ カーブミラーや呼びかけの看板を設置してほしい
- ・ 横断歩道を設置してほしい



市への提言 【通学路の改善】

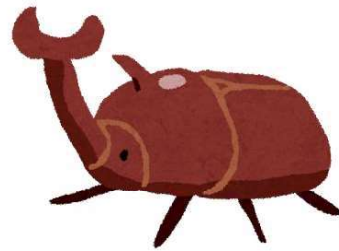
- ・ ガードレール、縁石を設置してほしい
- ・ カーブミラー、ポールを設置してほしい
- ・ ゴミ捨て場について、狭い道には置かない、道の半分にするなどの決まりを作してほしい
- ・ 小中学生に対し、通学路について定期的なアンケートを取ってほしい



自然の保護グループ 自然や里山の魅力を増やすために

大澤悠 小倉三桜子 柏原楨 小谷優真 田中真紘

藤崎晋一郎 堀大希 山田夢佐志 渡辺央聖



テーマに興味を持った理由



「持続可能な社会」に向けての活動が話題になっている今の時代

里山は【生物の多様性、景観形成、子どもの自然への関わり】

→これからの社会に必要

しかし、高齢化や松枯れにより
里山の減少が著しいという話を聞いた





松本市の現状・取り組み

自然への興味を持たせるために

- ・市内の小学校
「学有林」を使用した活動を通して子どもたちの自然への関わりを増やす機会を設けていた
- ・自然観察会を行っている



松本市の現状・取り組み

里山を守っていくために

NPO法人「木の絆会」のボランティア活動

- ・里山の管理
- ・若い人が自然に関わったり里山管理について理解してもらう場作り

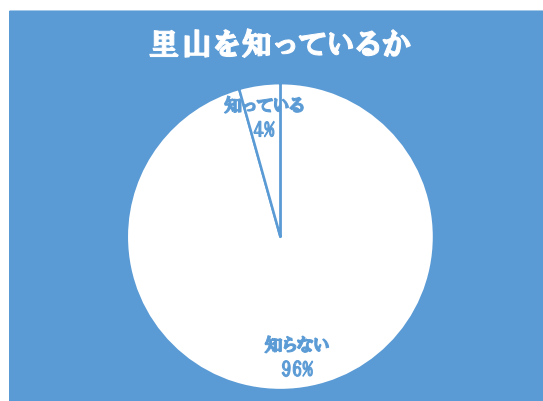




松本市の課題

子どもたちの自然への興味の低下

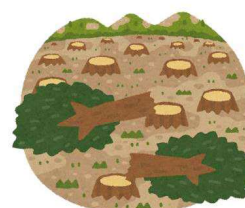
- ・多くの子どもが「里山」という言葉を知らなかった。
- 里山の明白な定義について聞くと中高生や大学生も知らなかった
- ・自然に囲まれた松本市でも虫嫌いは非常に多い



松本市の課題

里山の消滅の危機

- ・里山へのボランティアでは若い人の活動もあるが里山管理を職業にしている人は高齢者の割合が多い
- ・松枯れや住宅地の開発、里山の管理が行われなくなることによって里山の減少が著しくなっている





市への提言

心から自然を愛する里山管理者を一人でも多く作る



子どもたちが自然、虫に興味を持ってもらう
イベントの開催



市への提言

キャンプ体験

カレー作りや自然へのふれあいを通して、
自然への愛着や理解を深める



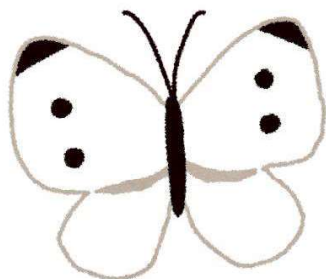
虫 キング対決

みつけた虫を撮影し、貴重さに応じて
高いポイントを付け、得点が1番多いチームを決める



市への提言

(例)



モンシロチョウ 1ポイント



ミヤマクワガタ 10ポイント

ゲーム性をもたせて子どもが興味を持つようにする
→自然や虫についての正しい知識の習得



ボランティアグループ ～ごみのポイ捨てについて～

石井章雅 大沢篤士 大沢朱夏 黒崎奏
小松依愛 鈴木咲歩 若林優佳





テーマに興味を持った理由 1

- ボランティア自体の活動が楽しそうだったから。
- ボランティアをやってみたかったから。
- ゴミをポイ捨てする人が多い。



テーマに興味を持った理由 2

- 道にゴミが落ちていて、
市民も観光客も良い気持ちがないから。
- 市全体でゴミの排出量が多いから。
- 年間で排出されているゴミの量が気になったから。





松本市の現状

- ゴミがたくさん落ちている所と少ないところに差がある。
- ビニール袋などのゴミが落ちていることが多い。
- 拾ってもきりがない。
→ゴミが0にならない。



松本市の取り組み

- 清走中（松本市は後援）
- 5月30日はごみゼロの日
ごみゼロ運動
- 10月は散乱ごみ追放
キャンペーン
- ポイ捨て啓発活動





松本市の課題

- ゴミ拾いする人が少ない。
- リサイクルされていることがあまり知られていない。
- 場所によってポイ捨てが多いところがある。
(公園、道、道路)
- 気軽にポイ捨てしてしまう人がいる。
(お菓子のゴミ、タバコ、ビニール袋、ティッシュ、ガム)



市への提言

- 一般の人が率先してゴミ拾いをやりたくなるようなボランティア活動を作してほしい。
- ユニークなゴミ箱の設置

例 アンケート形式
ゲーム形式





自分たちができること

- ・ 学校で市内のごみ拾いをする
- ・ 地域のごみ拾いに積極的に参加する
- ・ 登下校中にごみ拾いをする



PRグループ

浅輪奏仁 滝川未央 滝澤智貴
田中洸介 富田真紗子 根本怜奈
藤崎悠理 山田明文 横山加奈





テーマに興味を持った理由

PRについて、もう一度考えたいと
思ったから



→ 私たちができるPRとは？



松本市の現状・取り組み



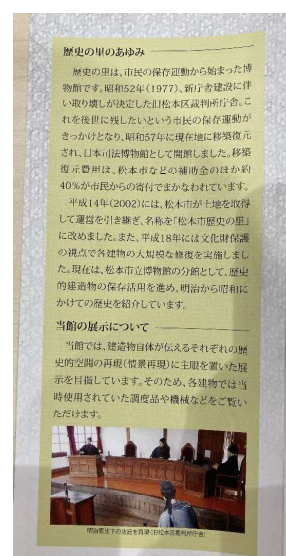
- ・ 有名な観光地はみんな知っている
- ・ 市民の地元愛が強い
- ・ 言語翻訳など、外国人観光客（インバウンド）の
受け入れ態勢が整っている
- ・ SNSを活用したPR





松本市の課題

- ・ P R の対象が大人に限定されている
- ・ 子ども(小学生以下)が楽しめるコンテンツが少ない
- ・ 認知度が高い人気のある観光地に集中している



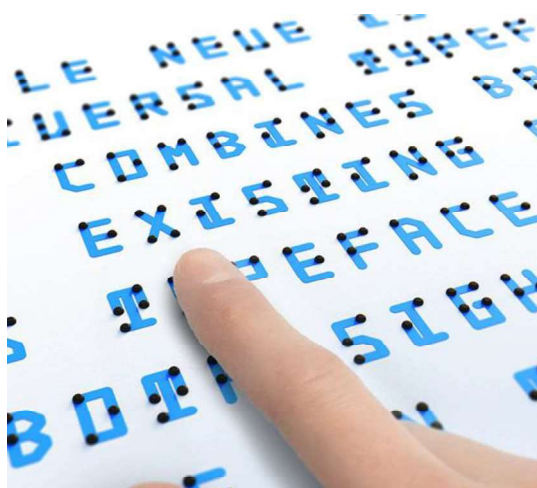
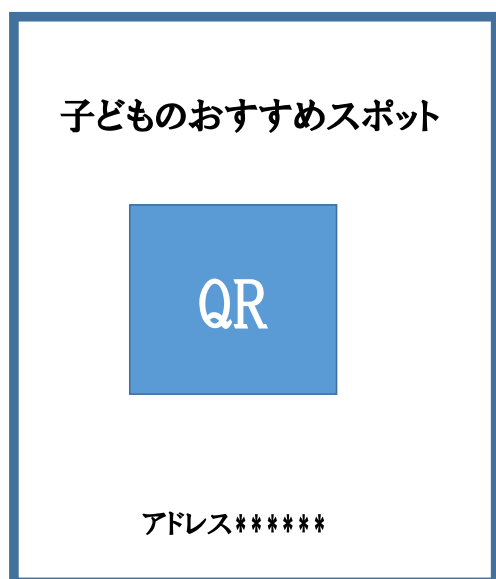


市への提言

- ① 子ども向けのわかりやすい言葉、ひらがなで書かれたパンフレットの作成
→子どもが興味をもって松本市を知る機会になる
- ② 子どもが楽しめる体験型のイベントを増やす
- ③ 有名な観光地にあまり知られていない観光地（心霊スポット等）のパンフレット等を設置
- ④ 目を引きやすいポスター、ホームページの作成



ブレイルノイエ



私たちができること

松本をより深く楽しんでもらうために



- 子ども目線で面白いものをまとめたマップ作り
(面白い石・道、子どものうわさの心霊スポット巡り、
歴史の里、少年刑務所、アルプス公園の動物園、
四柱神社、美ヶ原の牧場、時計博物館、四賀化石館など)
→そこに行くまでにあるお店も知って楽しんでもらえる
ようにする



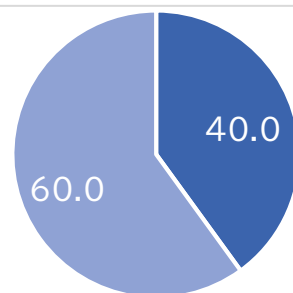
ご清聴ありがとうございました！



2 未来委員初回アンケート

学年

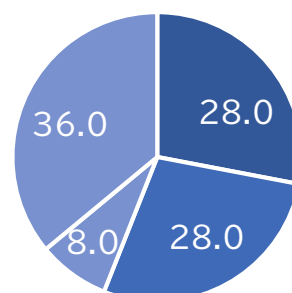
	人数	割合(%)
小学生	10	40.0
中学生以上	15	60.0
合 計	25	



■ 小学生 ■ 中学生以上

参加のきっかけ

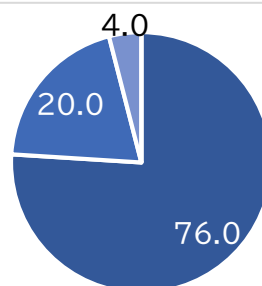
	人数	割合(%)
楽しそうだったから	7	28.0
お家の人にすすめられたから	7	28.0
なんとなくやってみたかったから	2	8.0
その他	9	36.0
合 計	25	



■ 楽しそうだったから
■ お家の人にすすめられたから
■ なんとなくやってみたかったから
■ その他

松本市への興味・関心

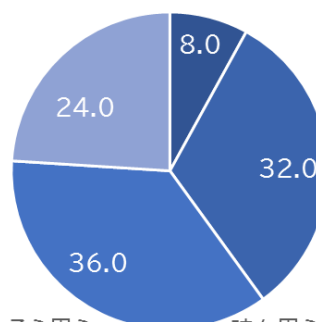
	人数	割合(%)
ある	19	76.0
少しある	5	20.0
あまりない	1	4.0
ない	0	0.0
合 計	25	



■ ある ■ 少しある ■ あまりない ■ ない

人前で発言することを恥ずかしいと思うか

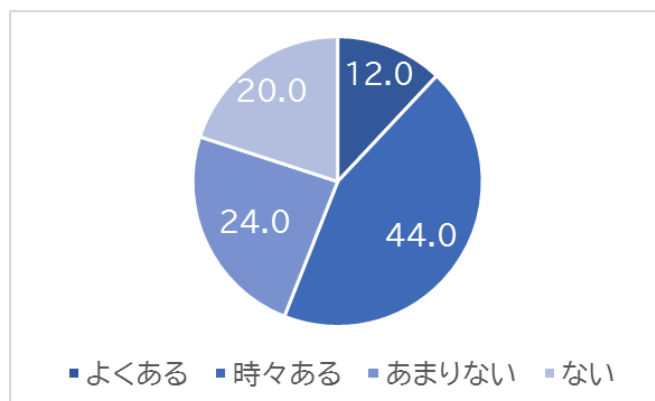
	人数	割合(%)
そう思う	2	8.0
時々思う	8	32.0
あまり思わない	9	36.0
思わない	6	24.0
合 計	25	



■ そう思う ■ 時々思う
■ あまり思わない ■ 思わない

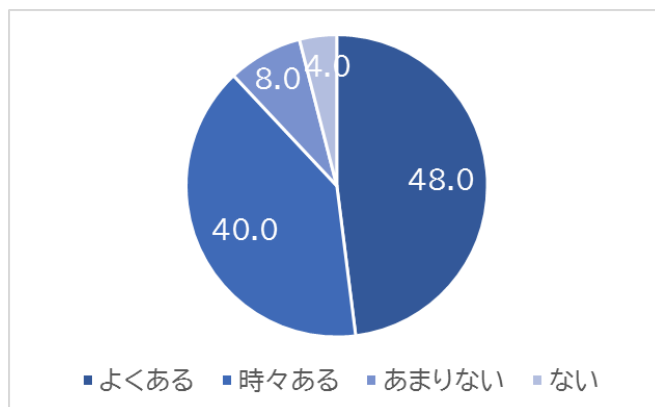
自分の言いたいことが言えないことがあるか

	人数	割合(%)
よくある	3	12.0
時々ある	11	44.0
あまりない	6	24.0
ない	5	20.0
合 計	25	



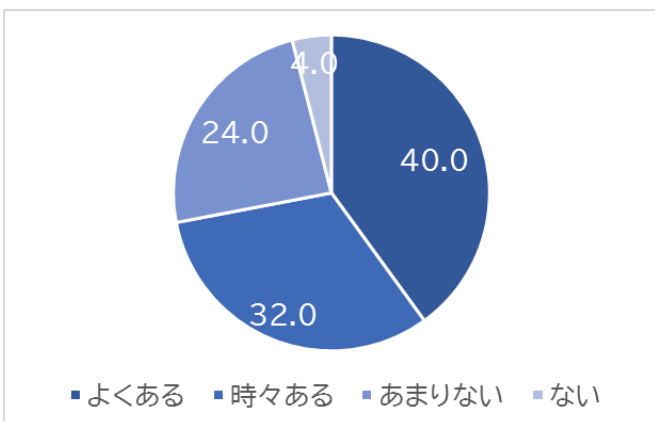
家庭で自分の意見を言うことがあるか

	人数	割合(%)
よくある	12	48.0
時々ある	10	40.0
あまりない	2	8.0
ない	1	4.0
合 計	25	



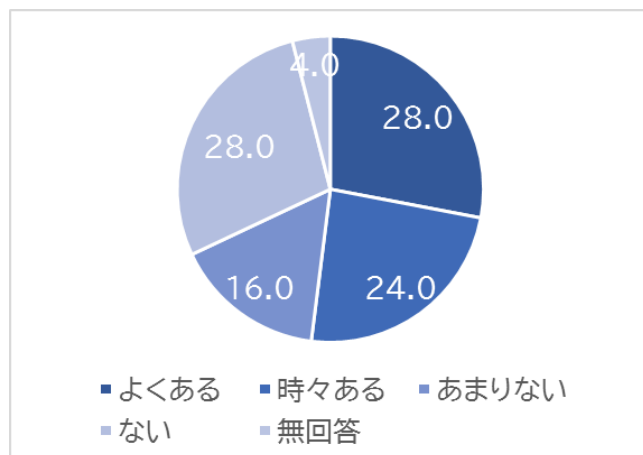
学校で自分の意見を言うことがあるか

	人数	割合(%)
よくある	10	40.0
時々ある	8	32.0
あまりない	6	24.0
ない	1	4.0
合 計	25	



地区で自分の意見を言うことがあるか

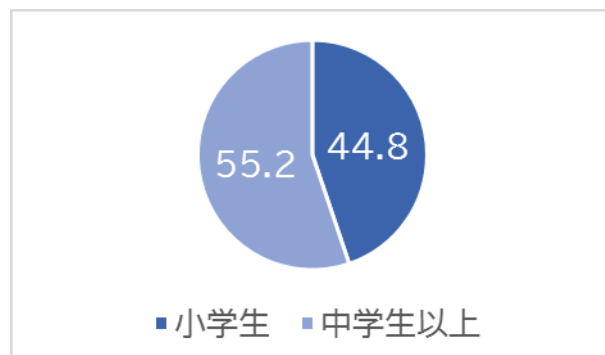
	人数	割合(%)
よくある	7	28.0
時々ある	6	24.0
あまりない	4	16.0
ない	7	28.0
無回答	1	4.0
合 計	25	



3 未来委員最終回アンケート

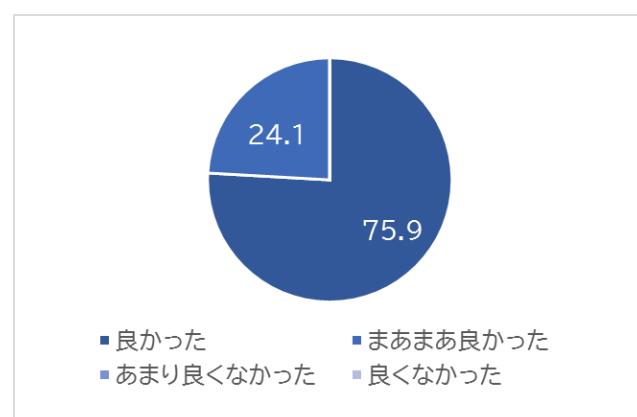
学年

	人数	割合(%)
小学生	13	44.8
中学生以上	16	55.2
合 計	29	



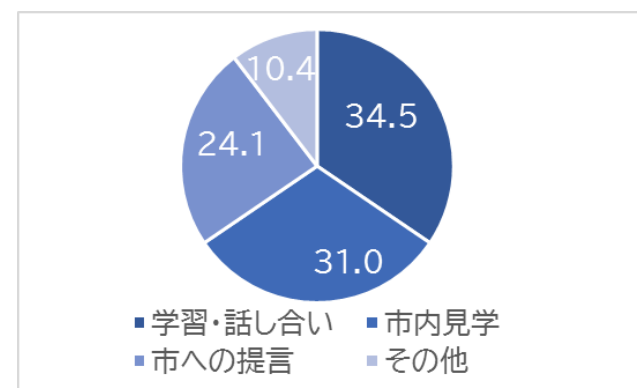
委員会の感想

	人数	割合(%)
良かった	22	75.9
まあまあ良かった	7	24.1
あまり良くなかった	0	0.0
良くなかった	0	0.0
合 計	29	



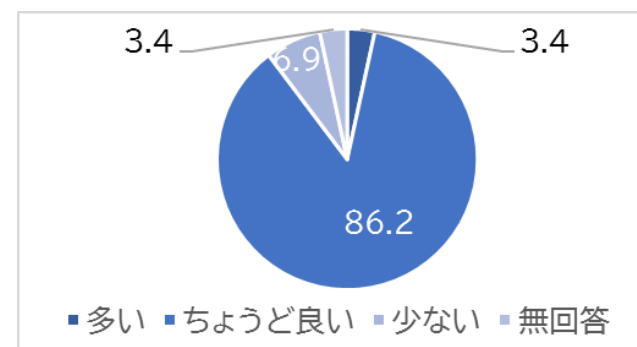
一番思い出に残っていること

	人数	割合(%)
学習・話し合い	10	34.5
市内見学	9	31.0
市への提言	7	24.1
その他	3	10.3
合 計	29	



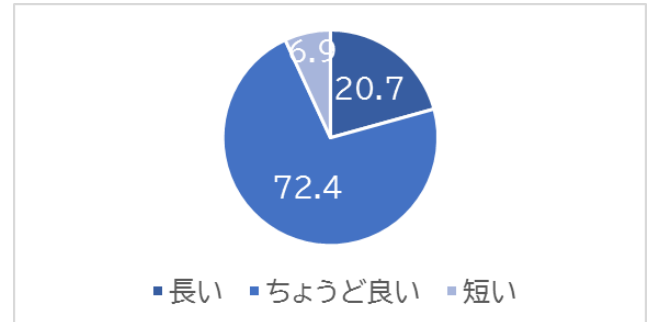
委員会の回数について

	人数	割合(%)
多い	1	3.4
ちょうど良い	25	86.2
少ない	2	6.9
無回答	1	3.4
合計	29	



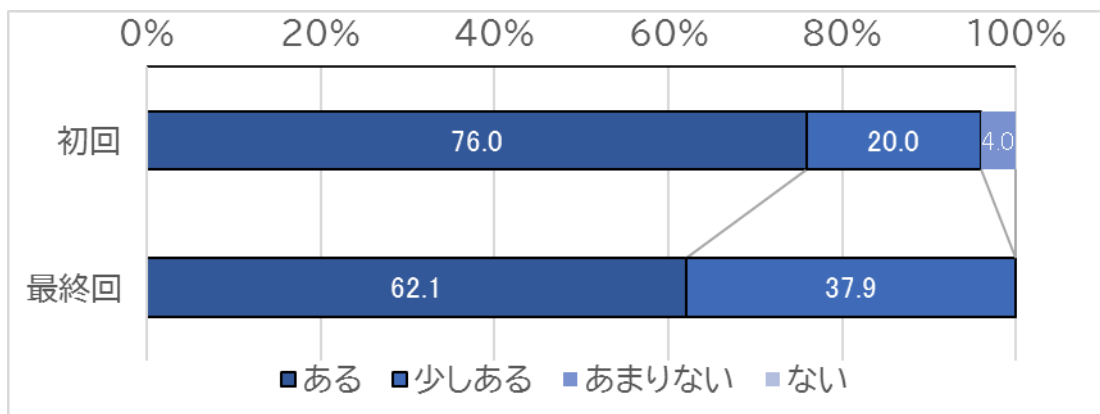
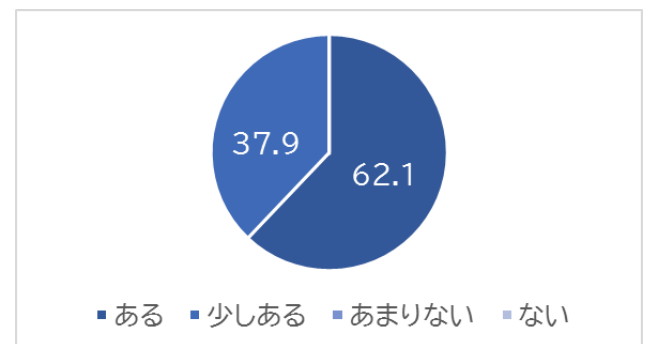
委員会の時間について

	人数	割合(%)
長い	6	20.7
ちょうど良い	21	72.4
短い	2	6.9
合計	29	



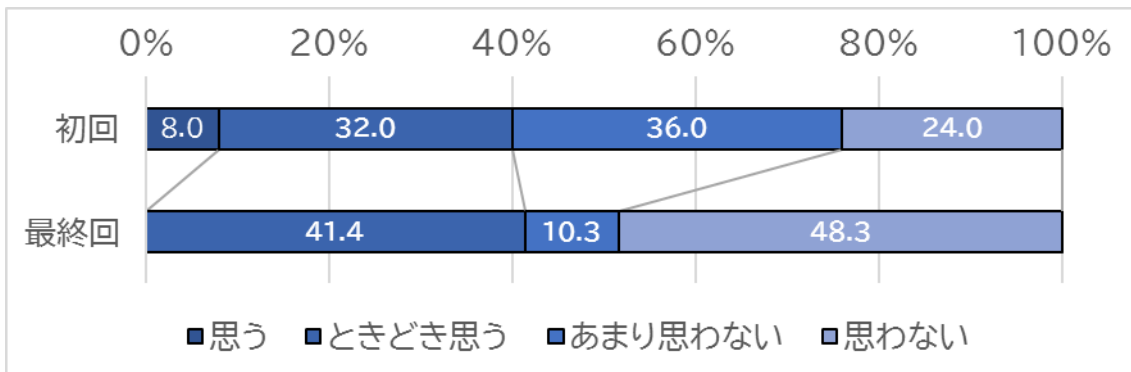
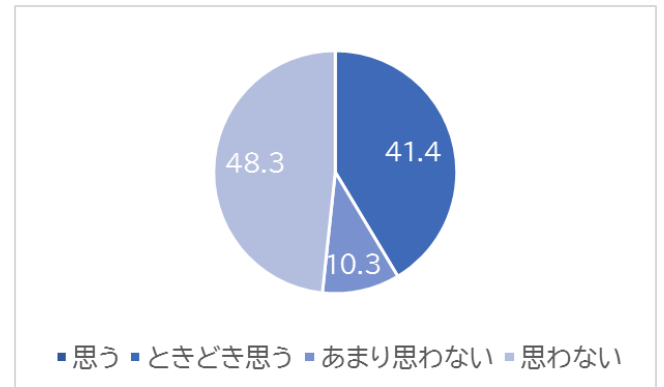
松本市への興味・関心

	人数	割合(%)
ある	18	62.1
少しある	11	37.9
あまりない	0	0.0
ない	0	0.0
合 計	29	



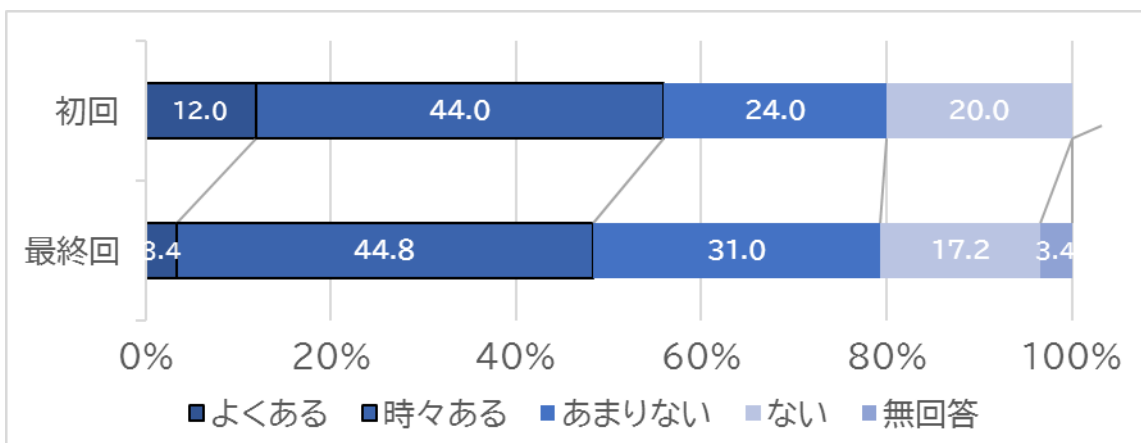
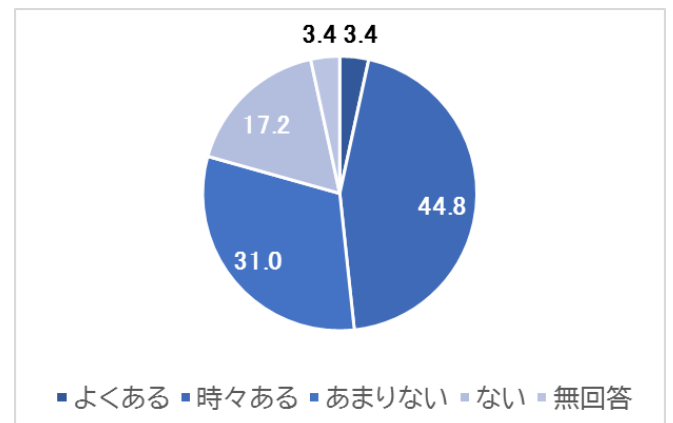
人前で意見を言うことを恥ずかしいと思うか

	人数	割合(%)
思う	0	0.0
ときどき思う	12	41.4
あまり思わない	3	10.3
思わない	14	48.3
合 計	29	



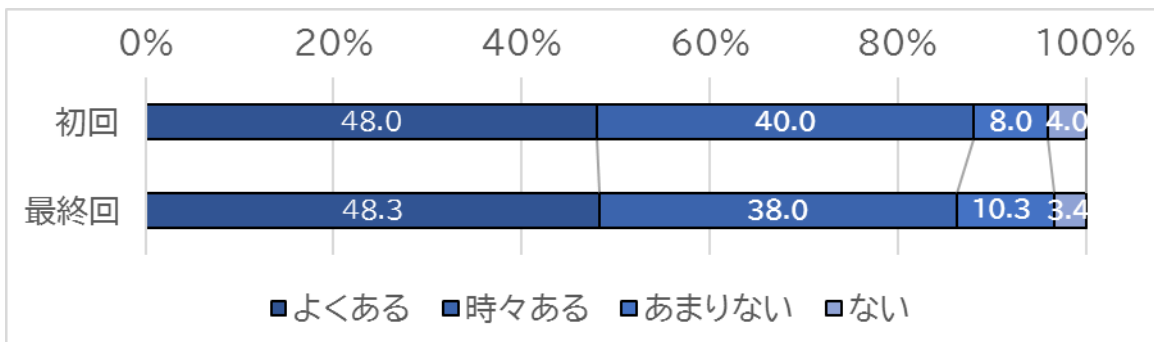
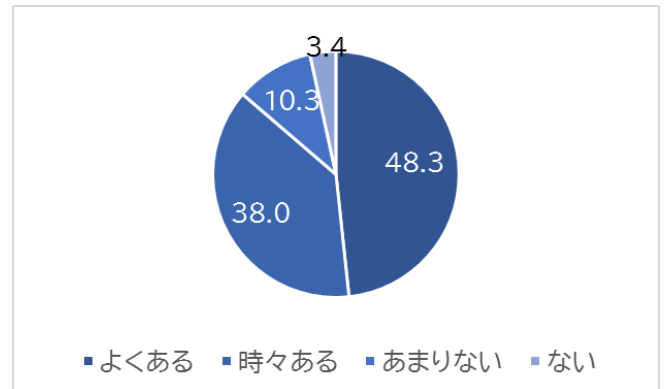
自分の言いたいことを言えないことがあるか

	人数	割合(%)
よくある	1	3.4
時々ある	13	44.8
あまりない	9	31.0
ない	5	17.2
無回答	1	3.4
合 計	29	



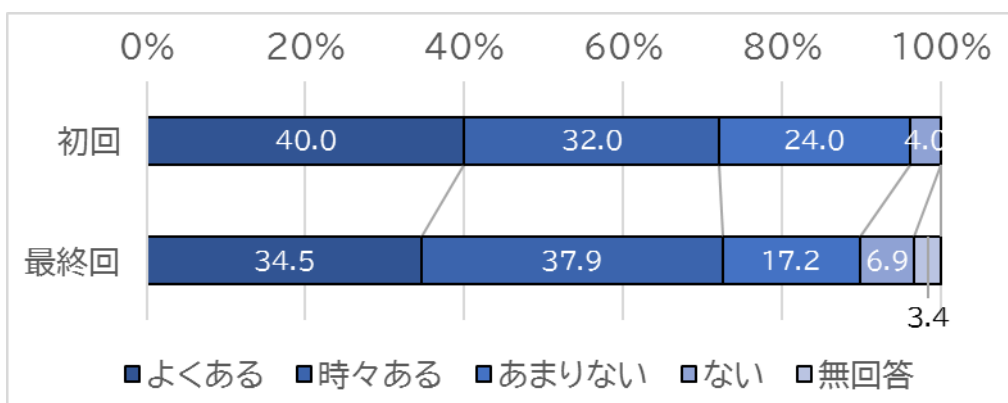
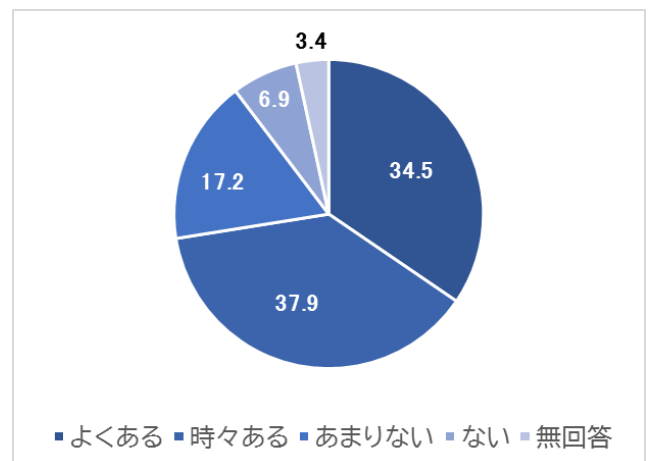
家庭で自分の意見を言うことがあるか

	人数	割合(%)
よくある	14	48.3
時々ある	11	38.0
あまりない	3	10.3
ない	1	3.4
合 計	29	



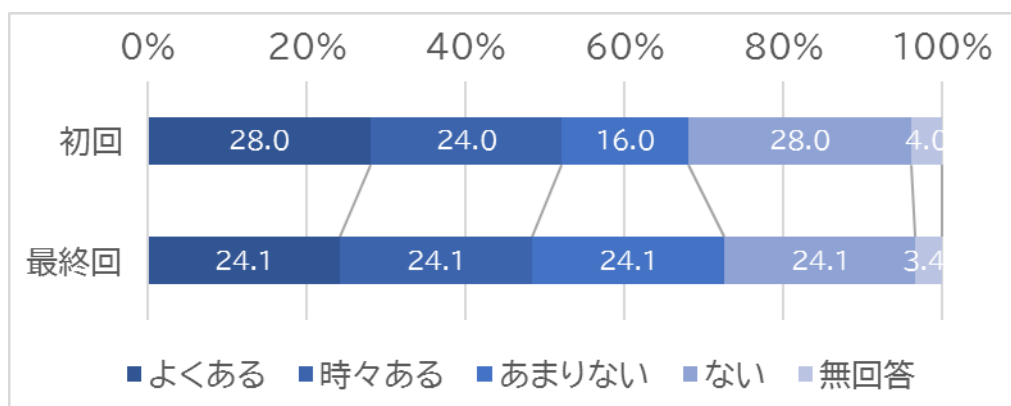
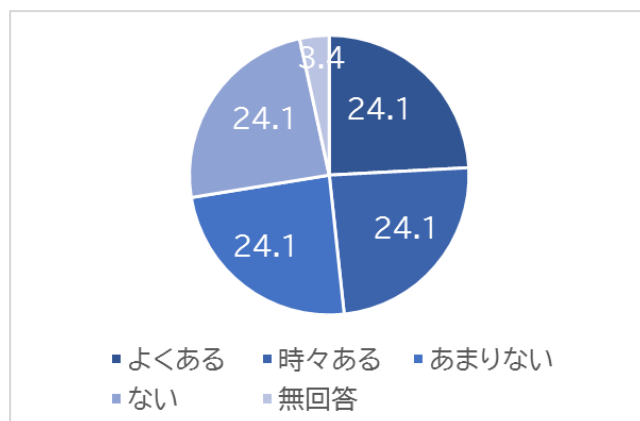
学校で自分の意見を言うことがあるか

	人数	割合(%)
よくある	10	34.5
時々ある	11	37.9
あまりない	5	17.2
ない	2	6.9
無回答	1	3.4
合 計	29	



地区で自分の意見を言うことがあるか

	人数	割合(%)
よくある	7	24.1
時々ある	7	24.1
あまりない	7	24.1
ない	7	24.1
無回答	1	3.4
合 計	29	



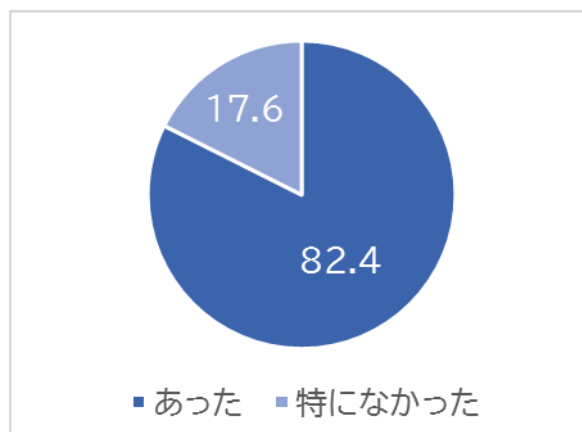
未来委員会の感想（自由記述）

- ・実際に活動する日を増やすと良いと思う。
- ・子どもの集中力が続くように考えてほしい。
- ・他の自治体の子どもたちとの交流を増やしてほしい。
- ・スマホやタブレット、漫画、ゲームの使用は、やめた方が良い。
- ・グループ決めをもっと早くした方が良い。
- ・グループごと集まる日もあった方が良い。
- ・大学生サポーターの考えや意見を参考にしまっって、委員が言いたいことを制限してしまっているのではないかと思います。
- ・市への提言では、はっきりしっかり伝えることができた。
- ・昨年の課題であがったゲームについては、かなり改善されてきていると思います。
- ・市内見学など、いろいろな人の話を聞くことが多く、楽しかった。
- ・活動時間が長いというか、ダラダラやっている時もあったから、時間を有効に使って、濃密な時間にしたい！

4 保護者最終回アンケート

子どもに変化があったか

	人数	割合(%)
あった	14	82.4
特になかった	3	17.6
合 計	17	



変化の内容(複数回答)

	人数	割合(%)
松本に興味・関心を持つようになった	11	64.7
人前で発言することに慣れた	11	64.7
学校行事等に積極的・自発的になった	9	52.9
家庭での会話が aumented	3	17.6
合計	34	

要望・感想 等

- ・青森市とのオンライン交流会や他の自治体の取り組みに触れる機会があり、よかったです。
 - ・子どもたちからの提言が、その後どのように市政にいかされているのか知る機会があるとさらにやりがいにつながると思います。
 - ・最後まで参加することができて良い学びになりました。来年度も参加したいと言っています。なかなか物事の理解が周りの子達と比べてスロースターターですが、本人なりに頑張る姿も見受けられたので成長できればと思います。
 - ・他校や異年齢の皆さんと交流ができ、松本を詳しく知ったり発表の機会があったり、未来委員会ならではの経験ができてありがたいです。
 - ・自閉症のため支援級に通わせています。少々心配でしたが上の学年の皆さんのおかげで無事に終えることができました。習い事は本人の特性のこともあり、今まで何も出来ませんでした。無料で集団行動を教えていただきありがたいです。
 - ・1回が2時間半で長い気がするが、子どもたち、そんなに集中力が続くのかな？と。市長への提言が目標の感じだが、子どもは、あまり実感がないみたい。
- 夏に1回、外に出るのではなく、駅で、「松本をよくしようと考えています」みたいなビラ配りをしたり、目の不自由な人の話を聞くだけではなく、ボランティア活動をみんなでしたりしないと、よく分からないんじゃないかなあと。せっかくだから、話しだけでなく、色んな体験をして意見を出し合えたら、良いなあとと思います。

..........*.....*.....*.....*.....*.....*.....*.....*.....*.....*.....*.....*

第9期 まつもと子ども未来委員会
活 動 報 告 集

発行 松本市
編集 松本市こども部こども育成課

〒390-8620 長野県松本市丸の内3番7号
電話 0263-34-3291 FAX 0263-34-3309

令和6年6月発行

..........*.....*.....*.....*.....*.....*.....*.....*.....*.....*.....*.....*



まつもと子ども未来委員会のマークに子どもたちが込めた思い

- ① 松本を大切にしたい（手の中に松本市）
- ② 笑顔でいっぱいになりたい
- ③ 松本の自然（山・太陽）を描きました